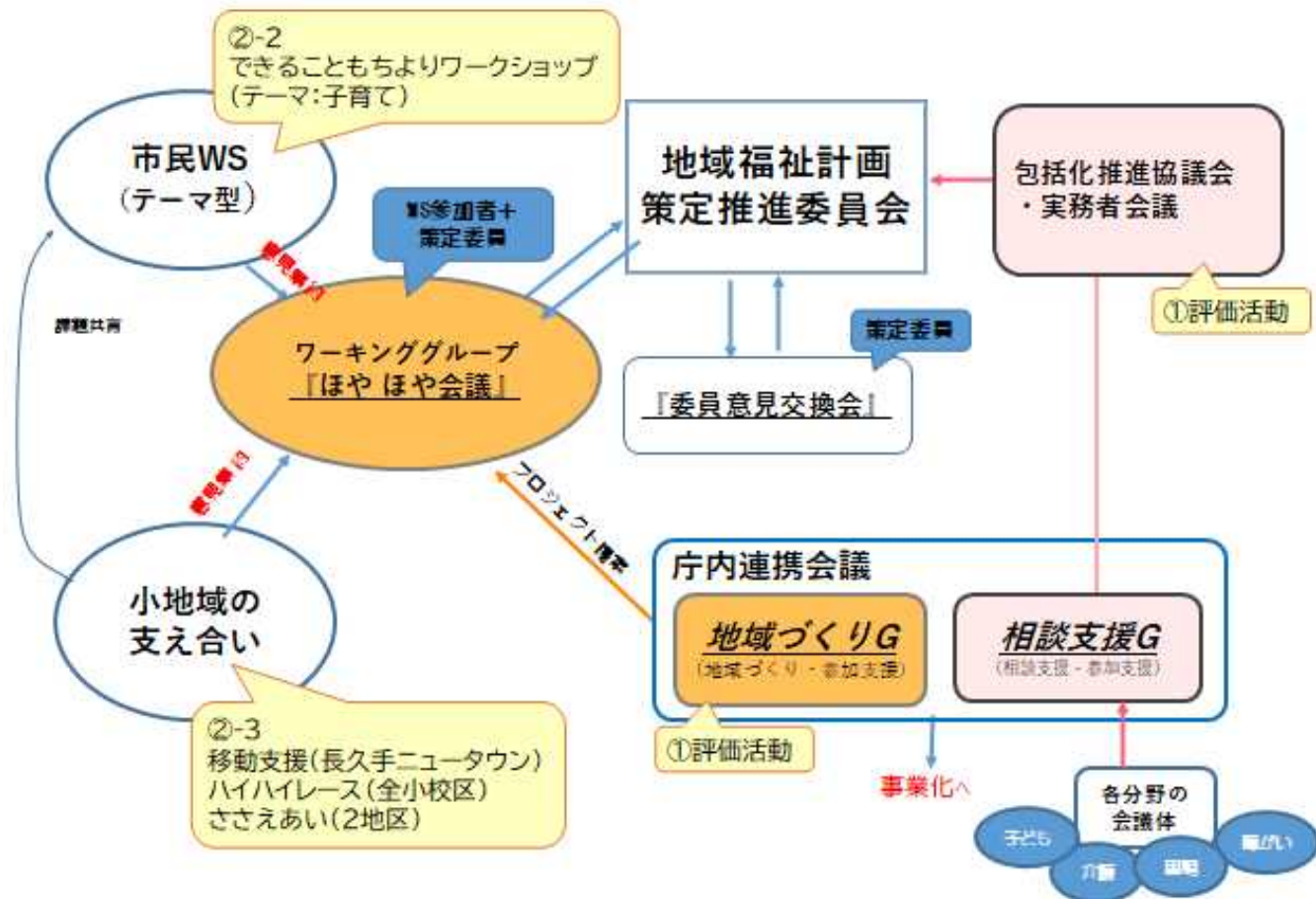


地域福祉計画等策定に向けた主な計画活動

| 計画活動 | 対象 | ねらい | S.P.Tとの関係 |
|----------------------------|--------------------------|---|-----------|
| ① 評価活動 (事業評価・庁内連携会議) | ・庁内関係各課 ・関係機関 | 支援現場や地域のニーズに応じた事業の組み換えや、体制整備の合意形成に関するプロセスを明らかにしたい。 | P.T |
| ②-1 市民意識調査 (アンケート) | 長久手市に在住する16歳以上の市民 5,600人 | 市民の地域福祉に対する意識や意見の集約・分析を行い、計画活動に反映するとともに、今後の福祉推進に役立てたい。 | S |
| ②-2 市民ワークショップ (テーマ型) | ・関係各課 ・個人 | 長久手市において共通の関心事(今年度は「子育て」)を持つ団体、個人が会う場やプラットフォームを作る際のプロセスを明らかにしたい。 | P.T |
| ②-3 小地域の支え合い | ・地域住民 (自治会単位等身近な範囲) | ①市民が身近な地域で生じている困り事を知ることによって生じる意識の変化を明らかにしたい。 ②市民同士の関わり合いによって具体的な解決策を探り当てていくプロセスを明らかにしたい。 | S |
| ③ 業務量調査 | ・地域共生推進課 ・社協CSW | 地域共生推進課・CSWが、「長久手市の地域共生社会の実現に向けて、どのような役割を担っているのか」について、見える化を図りたい。 | S.P.T |

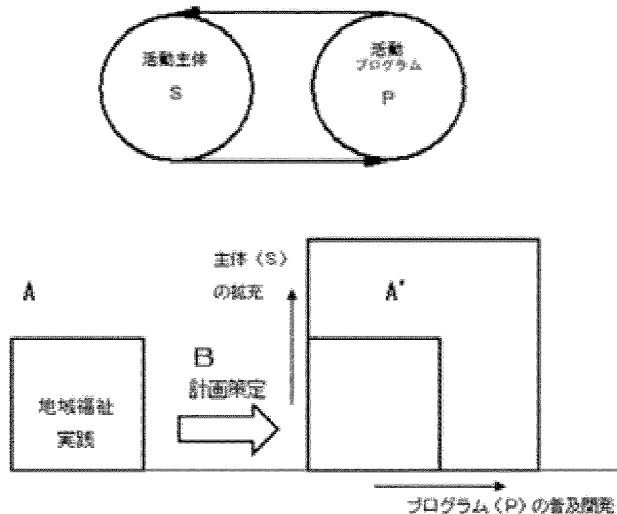
計画活動と各協議体との関係



地域福祉を豊かにしていくために必要な要素

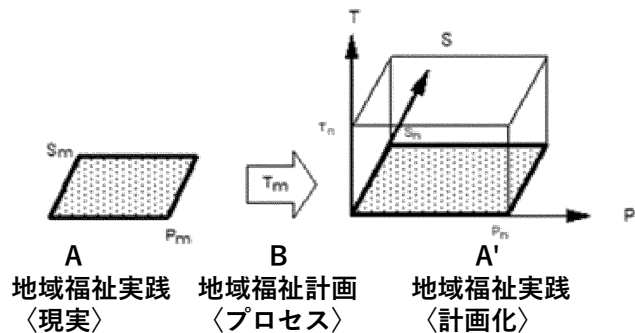
1. 活動主体とプログラム

地域福祉は、①ある活動主体(S)が
②プログラム・活動(P)を実践している
→いかに活動主体(S)とプログラム・
活動を増やしていけるかがポイント



2. 話し合いの場

様々なことを話し合う場(T)があることで、SとPがさらに多様化し、より豊かな地域福祉が実現される
→この策定委員会のも主たる話し合いの場(T)の一つ



計画策定に向けた市民参加の取り組み

②-2 市全体でのテーマ型ワークショップ

地域のつながりと社会資源を創出するための継続的な話し合いによる市民主体の取組

→ できることもちよりワークショップ

②-3 小地域での支え合いの取り組み

身近な地域に関心をもち、人と人がつながり、顔の見える関係を築くための話し合いの場の設置

→ 長久手ニュータウンでの移動支援

→ 各小学校区でのハイハイレース

できもちワークショップの取り組み

できもちワークショップの目的

1. 困りごとを抱える人に対して、わたしの「できること」をもちよる気持ちの醸成
2. 「あの人」や「みんな」と繋がって、「できること」を体感することで、人と人とがゆるやかにつながる文化を育む

NPO法人ながいくとの共催

計画策定のための市民ワークショップとして、「できることもちよりワークショップ」の実施を検討する過程で、「NPO法人ながいく」も同様の手法でのワークショップを検討していることを知る。

→参加者やネットワークの広がりを期待し、協働実施とした。

準備から開催までの経緯



ワーキングチームによる事前準備

できもちワーキングチーム

今回のワークショップは、NPOや市民団体に活動する市民でワーキングチームを作り、事前準備を行った。

まず、それぞれの立場や価値観の違いを理解するため、時間をかけた対話を行った。

ワークショップ当日の役割分担についても話し合いを重ね、参加者を温かく、迎え、積極的に参加できる雰囲気づくりを目指した。

〈内容〉

- ・9/16 ワークショップの理念や目的、地域の課題、WS当日に参加してほしい人を検討
- ・9/30、10/13 長久手で起きている困りごとの事例を踏まえ、WS当日取り扱う事例を検討
- ・9月下旬～11月上旬 WS当日に参加してほしい人への声かけ



9/16(金)
ミーティングの様子 7

できもちワークショップ

日時:令和4年11月13日(日) 午後1時30分～午後5時

場所:福祉の家 2階 集会室

参加者:45人

「子育て」をテーマに、困りごとを抱える事例を用いて、その人や世帯の暮らしが少しでもなるよう、参加者から「わたし」や「みんな」のできることをもちよるワークを行った。



〈参加者の声〉

- 招待された時の熱意に胸打たれました！
- 今まで関わっていない人と出会えてうれしかった！
- 真剣に事例に向き合う姿に感動した。
- 私にも、「できること」があるんだと思えた。
- みんなで知恵を出し合い、気づきを得るところが良かったです。
- また違うテーマでやりたいです！

ふりかえり会

日時:令和4年12月10日(土) 午後2時30分～午後4時30分

場所:交流プラザ 1階 多目的室

参加者:19人

ワークショップ当日の感想、その後の気持ちの変化などを共有。

また、それぞれがこれからチャレンジしたいことについて、アットホームな雰囲気でも共有、話し合うことができた。



〈参加者の声〉

- 真剣に話し合う場・思ったことが言える時間があるって、いいよね。
- 頑張っている人を応援する雰囲気が良かったです。
- 長久手には、こんなに温かい大人がいるんだ！
- みなさん積極的に活動しているので、自分も頑張ってみよう。
- これから、このまちでどんなことが起きるのか楽しみです！

まとめ

【できもちワークショップを通して】

- 準備の段階から市と市民が関わり、話し合いを重ねる過程で、参加者同士が、立ち位置や考え方の違いを認識する機会となった。
- ワークショップのテーマは「子育て」だったが、活動の分野を超えて参加者に声をかけることで、垣根を越えたつながりを作るきっかけの場になった。また、参加者の属性を問わず、課題に向き合う気持ち・態度を共有する場となった。
- ふりかえり会は、「やりたいこと」に着目し、積極的な発言が多くあり、市民の前向きな取り組みを応援し合える場、ポンと背中を押すきっかけの場となった。
- 日頃感じている気持ちの違いや自分にできないことを知ることで、困ったときに、誰とどう関わることができるか考える機会となった。

【今後の取り組み】

- ワークショップ当日で終わりではなく、日常的な関わりを通じて、その後の取り組みや変化に寄り添うスキームを作っていきたい。
- 準備の段階から市民が関わり、さらにその人に誘われた市民が参加するWSなどの取組を繰り返すことで、市民が主体的に参画する地域の輪を広げていきたい。

移動支援事業住民検討会の取り組み

【移動支援事業の目的】

公共交通が不便で困っているという住民の声を受け、東小学校区地区社会福祉協議会において、行政に頼らず、住民の支え合いで移動が困難な方を地域で助けようと立ち上がった取り組み。

話し合いを経て、長久手ニュータウンをモデル地区として、試行運転実施中。

移動支援検討メンバー

約15名

ボランティアドライバー(4名)、東小地区社協副委員長、長久手ニュータウンの民生委員、移動支援の利用者、CSW

※令和5年度からは東小校区の全民生委員が参加する予定。



移動支援事業(たすけあいカー)を利用する様子

移動支援事業住民検討会開催結果

【令和4年度開催日】

・全5回開催

4月9日(土)、7月9日(土)、9月18日(日)、12月25日(日)、2月26日(日)

【話し合った主な内容】

- ・ 普段の移動の困りごとについて
- ・ 運行ルートやダイヤについて
- ・ 利用促進や周知について
- ・ ボランティアドライバーの確保について
- ・ 今後の展望について
- ・ 地域のニーズ調査について
(戸別訪問によるアンケート調査の実施)など



↑ 住民検討会の様子

長久手ニュータウン
おでかけあなたの車通信

発行年度 (2024年) vol.1
読者数 個人 6人 団体 4人
発行先 長久手市市民生活部 長久手市地域生活推進課

おでかけあなたの車

- おでかけあなたの車の登録台数
- 登録台数の増減
- 登録台数の推移
- 登録台数の比率
- 登録台数の推移
- 登録台数の推移

おでかけあなたの車の利用実績 (令和3年～令和4年)

出稼実績 100台
利用台数 76台
ボランティアドライバーの登録人数 56名

おでかけあなたの車は、毎週金曜日に運行されており、毎月1回(月)の営業でご利用いただけます。日長が伸びる月間が有利な場合があります。お申し込みの際は、「長久手市市民生活部」よりお問い合わせください。お問い合わせ先：長久手市市民生活部

おでかけあなたの車の今後の展望

- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望

おでかけあなたの車の今後の展望

- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望
- おでかけあなたの車の今後の展望

↑ ニュースレターの作成

検討会で生まれた取り組みの例

「ボランティアドライバーの確保」「利用促進」「ボランティアドライバーと利用者の交流促進」の課題をどのように解決できるか検討会で話し合いを実施



多くの方に足を運んでいただける楽しい催しを開催して、移動支援事業の取り組みを知ってもらうことに！



アイデアや得意なことを持ち寄り、餅つきのイベントを行うことに！

同じように担い手不足の課題を抱えている長久手ニュータウン内の支え合い活動とタイアップして、更なる相乗効果を期待！



令和5年3月18日(土)10時から 長久手ニュータウン内にて、市民団体と協働で、餅つきやレクリエーションを行うイベントを開催する。イベントの中で、移動支援事業の実車試乗会や取り組みの紹介を行う予定。

まとめ

【住民検討会を通して】

- ・地域の課題を地域で認識して、地域の力で解決する土壌づくりができた。
- ・支援者と利用者の両者と協働して事業展開を検討したことで、利用者についても単に支援されるだけではなく、ルートやダイヤの策定に関わることで、我がごととして取組に参加する意識を育むことができた。

【今後の取り組み】

- ・他の地域でも移動支援の取り組みを行って欲しいとの要望が上がってきているので、地域特性やニーズを鑑みて、取組を他の地域へも住民主体のかたちで拡大していきたい。
- ・取り組みを拡大するに当たっては、行政職員とCSWらが自ら地域に足を運ぶとともに、該当地区の民生委員も話し合いに参加してもらうことで、正しく当取組を市民が地域課題について考え、解決に向けて協働する経験の機会とし、今後の市民活動の参考となるような取組をしたい。

各小学校でのハイハイレース

ハイハイレースの目的

1. 同時期生まれのお子さんをお持ちのご近所さんと出会い、知り合う機会をつくる。
2. 近所にふらっと行くことができる居場所(共生ステーション・児童館)があり、相談できる人(保健師、共生STスタッフ、保育士等)が身近にいることに気づいてもらう。
3. 子育て世代が抱える悩みやニーズを見える化することで、地域のなかで子育てを行う意識の醸成や具体的な支援活動の促進を図る。

各小学校区での開催

自分の身近な地域での出会いや場を知ることが重要と考え、全小学校区で、それぞれの校区の地域の方に協力してもらい、共生ステーションまたは児童館で**開催した**。

協力してくれた地域の方

西小校区まちづくり協議会、市が洞小校区まちづくり協議会、民生委員、児童館職員、NPO法人ながいく、中北薬品、社会福祉協議会CSW

ハイハイレース

《結果概要》

| | | | |
|-------|------------|---------|-------|
| ◎西小校区 | 令和4年10月29日 | @西共生ST | 13組参加 |
| ◎南小校区 | 令和4年11月1日 | @南共生ST | 12組参加 |
| ◎北小校区 | 令和4年11月7日 | @北児童館 | 14組参加 |
| ◎東小校区 | 令和4年11月9日 | @上郷児童館 | 14組参加 |
| ◎長小校区 | 令和4年11月10日 | @リニモテラス | 10組参加 |
| ◎市小校区 | 令和4年11月11日 | @市共生ST | 13組参加 |

第1部はハイハイレース
みんなで応援し合う雰囲気



〈参加者の声〉

- コロナ禍で交流やイベントが少ない中、参加出来て嬉しかったです。
- 参加者がみんなで応援するスタイルになっていて、微笑ましく楽しめました！
- ずり這いからたっちまで色々な子がいて、月齢が近い子の成長度合いを見ることができた
- 普段、家に子供といると社会との関わりをあまり感じる事が出来ないが、色々な方と接したり、一体となれて、とても楽しく、育児へのモチベーションも上がった。
- なかなかこの月齢で参加できるイベントがないので、よかったです。また、歩いていける場所での開催もありがたかったです。

ハイハイレース

第2部は育児あるあるトーク！

参加者から出されたテーマを参考に少人数でトーク
テーマ例)

- ・夜中よく起きちゃうけど、他の子はどう？
- ・離乳食や手づかみ食などのくらい進んでる？
- ・お友達づくりはどこでしてる？
- ・上の子へのケアは気をつけている？



〈参加者の声〉

- ・ 他の人の育児の様子や悩みを知れて自分の育児にも活かそうと思えた。
- ・ 悩みがみんな共通してると思えたり、アドバイスももらえて、子育てに孤独感がなくなった。
- ・ ハイハイ時期で月齢が近い事もあり、悩みが共有できたり、情報を得ることができた。
- ・ 自宅が近い人どうしが集まって話げできたため、近所付き合いに繋がる！
- ・ なかなか地域のママたちとお話しする機会がなく、お付き合いもないのでよかった。みんな思っていることは同じだなと共感できた。

まとめ

【ハイハイレース・育児あるあるトークを通して】

- 同じくらいの子どもを持つご近所同士でもつながっていないこと、コロナ禍もあり行く場所や機会も減り、孤独感を感じている人が多い。
- 育児を通して抱えている悩みや課題に直接解決はできていないが、同じ境遇のパパママに「共感」してもらえるだけで、孤独感が軽減され、前向きに育児に取り組めるきっかけとなる。
- 児童館や支援センター、共生ステーション等ふらっといける場所の整備はされていても、子どもと日中出かけられる場所探しに悩んでいる方が多く、情報が行き渡ってなかったり、普段出かけていない場にきっかけがないと出かけづらいという「心理的なハードル」がある。
- 孤立しがちな乳幼児期に、例えば看護師・栄養士さん等の専門職や、民生委員・児童委員、学生等の地域の方々など、子育てに関わる地域の第三者と出会う機会があると、「地域で子育てしている」体感が持ちやすい。

【今後の取り組み】

- 今回は、ハイハイする時期のお子さんを持つ世帯を対象にしたが、入園する前のお子さんが持つご近所さんが出会える場を、児童館や地域とともに引き続きつくっていきたい。
- 今回のようにフラットに当事者の声を聞ける場をつくり、聞いた声をいかに多くの人と共有し、取組に生かしていけるかを考えていきたい。